



2018年4月21日(土) グランヴェール岐山にて 「濃尾地域包括ケアセミナー」を 開催いたしました。

昨年に続き、「第2回濃尾地域包括ケアセミナー」を開催いたしました。当日は、当院病院長 松波和寿による濃尾地域包括ケア研究会の1年間の総括や、総合在宅医療クリニック 理事長 市橋亮一先生による講演を行いました。また、2回目ということで、今回は「診療の現場から」と題して、副院長 田上真、副院長 關野考史、救急総合診療科部長 八木川雄の3名の医師から、診療実績などの報告と発表を行いました。



社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 病院長
松波 和寿

▶濃尾地域包括ケア研究会のこの1年

当院は、1902年に私の曾祖父にあたる、松波熈太郎が岐阜市加納で松波医院を開院したのを皮切りに、祖父の松波賢吾、父である松波英一名誉院長、そして兄である松波英寿理事長と、親子4代116年にわたり、医療を提供し続けてきました。地域に必要な最先端の医療を追い求め続けた結果、501床の急性期から回復期、在宅支援まで包括的に担うことができる社会医療法人となりました。当院の近未来の予定として、北館西側の立体駐車場建設と、放射線医療を充実させるための増築が控えています。

当院の連携医は、所在地である羽島郡笠松町をはじめ、岐南町、岐阜市、各務原市、愛知県の本曾川町など300を超え、年々増えております。また、この1年間で新たに10の医療機関が当院と連携をしてくださりました。

前回のセミナー後から今日まで、昨年度中に7名の医師の増員、今年度は17名の医師の増員、そして研修医が9名入職と、診療機能を大幅に強化いたしました。しかし、一方では入院単価・外来単価が減少しており、診療報酬上、自助努力だけでの単価の増加は難しいものの、中身の濃い医療提供で、単価の増加をめざしたいと考えています。

当院では、病院の3カ年ビジョンとして、4つのテーマを掲げています。1つは「地域包括ケアシステムの要として、日本一の民間病院になる」。これは、治療して退院、それで良しではなく、地域でより健康的に過ごすため、「病院良し、患者・開業医良し、地域良し」の三方良しをめざします。2つ目は、「誇りを持った職場になる」。これは、職員満足度を上げ、モチベーション高く、医療という職を天職だと捉えるようにするためです。3つ目は、「選ばれる病院になる」。患者さんだけでなく、救急隊、開業医にも選ばれる病院になることをめざすためです。最後は、「全職員が志を同じくし、常に成長・変化できる組織」。医療制度などを常に素早く察知し、自ら変化する組織をめざします。

Matsunami Information

NEWS

2018年4月21日(土)に新入職員歓迎会が行われました。

去る4月21日(土)18時30分よりグランヴェール岐山において法人新入職員88名による懇親会が行われました。今回で7回目となる催しで、毎年同じ場所で開催される「濃尾包括地域ケアセミナー」で勉強後、法人新入職員が一同に介し一緒に飲食し、ビンゴで盛り上がり、自由に楽しく情報交換などを行っていただこうという主旨で「まつなみ親睦会」が主催してきました。



新入職員の ひとこと

4月から社会人となり、初めての経験が多く戸惑うことばかりですが、先輩方から多くのことを学び、日々精進していきたいと思っております。同期が皆で揃う機会は少ないですが、お互い励まし合い、地域医療に貢献していきます。

全員各部署での業務が始まり、なかなか皆で揃うことはなくなりますが、いつまでも職種を超えた同期として、今後も気軽に情報交換・ストレス発散など交流し、社会人としても成長し、地域住民の皆さんに信頼される医療・介護を提供できる人材になるよう、見守ってきたいと思います。

講演会・セミナーのお知らせ

松ゼミ (松波ナースィングスキルアップセミナー)

医療職の方なら、
どなたでも参加できます

テーマ	スキンテア(皮膚裂傷) 予防・管理方法と一緒に学びませんか?
日時	2018年6月25日(月) 17時30分～
場所	社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 南館 1階 MGHホール
講師	皮膚・排泄ケア認定看護師 奥田 容子

ロビーコンサート

日時	2018年6月16日(土) 14時00分～
場所	社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 南館 1階 エントランスホール
演奏者	4名合唱【クロスオーバー】：加藤友香(ソプラノ)、高砂知明(テノール)、濑谷佐和子(ソプラノ)、清水富士夫(バスバトン) 伴奏：三輪久仁子(ピアノ)
演奏曲	合唱：日本の四季の歌(早春賦、われは海の子、もみじ、冬景色)、モルダウ、瑠璃色の地球 ソロ：椰子の実、オーソレミオ、私のいとしいお父さん など

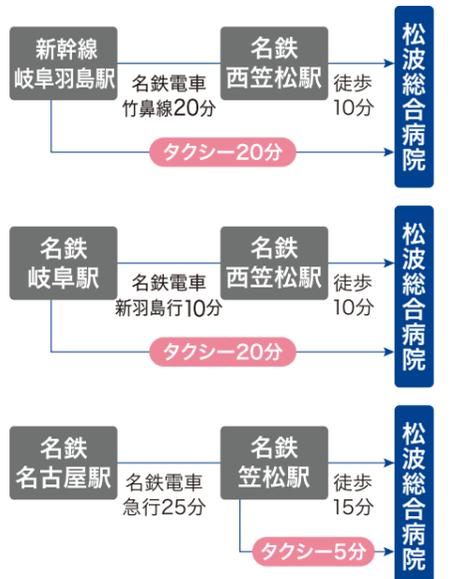


がん患者・家族のつどい 2018年度年間計画

月	テーマ	講師
5月	チューブ体操	理学療法士
7月	がんのお話	消化器内科 伊藤康文 第二消化器内科部長
9月	フットケア	外部講師
11月	アロママッサージ	外部講師
1月	がんのお話	消化器内科 伊藤康文 第二消化器内科部長
3月	栄養のお話	栄養士
予備	メイクアップについて	

開催日 第4火曜日14時00分～
場所 社会医療法人蘇西厚生会 まつなみ健康増進クリニック
化学療法室ラウンジ
お問い合わせ **058-388-0111(代)**
がん化学療法看護認定看護師 野々垣まで

交通のご案内



社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院

〒501-6062
岐阜県羽島郡笠松町田代185-1
TEL 058-388-0111(代)
FAX 058-388-4711
<http://www.matsunami-hsp.or.jp/>



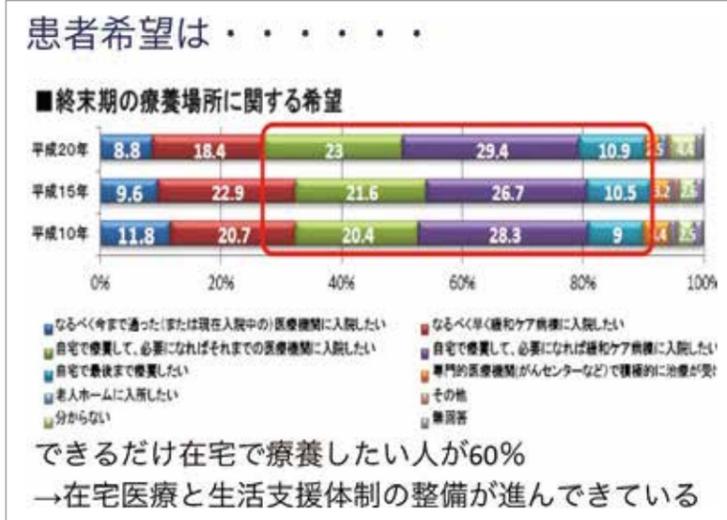
濃尾地域包括セミナー講演内容

講演

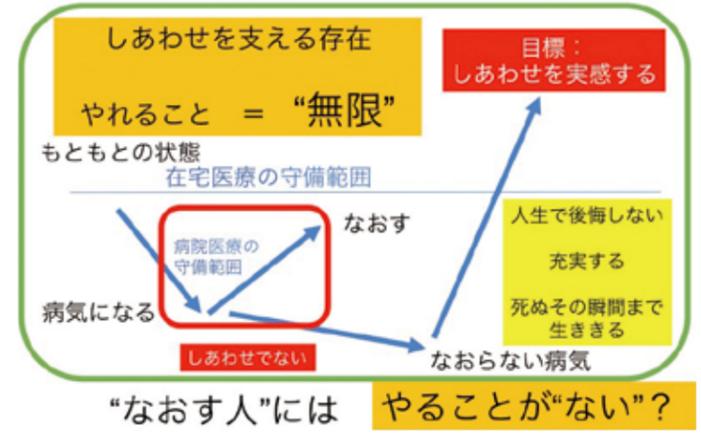
地域連携の価値とその方法



医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 理事長
市橋 亮一 先生



そもそも私達の目標は何ですか？



医療法人かがやき 総合在宅医療クリニックの理事長 市橋 亮一先生に在宅医療と多職種連携の役割についてご講演いただきました。

総合在宅医療クリニックは、通院が困難な患者さんや在宅療養を希望する患者さんと家族の支援を行っています。2009年に開設し、昨年11月に岐南町内に新築移転しました。開業から累計1,500名の在宅療養の支援をし、現在の患者さんは240名ほど、昨年から小児患者さんも受け持ち始めています。そして昨年は、128名の在宅看取りを支援したそうです。「総合型」在宅医療専門チームとして12職種37名の体制で活動し、血液内科や泌尿器科、緩和ケア科などさまざまな診療科の医師が9名在籍しています。また、管理栄養士・歯科衛生士・言語聴覚士が総合的に食支援をしたり、音楽療法士が自宅でバイオリンを演奏する音楽療法なども行っています。珍しい職種としてプロデューサーが在籍しており、在宅医療の地域への普及活動などを行っています。

在宅での診療風景はどのようなものなのでしょうか。医師が患者さんのご自宅で電子カルテを使って診療録を作成、処方箋と共にプリントします。カルテファイルを作成することで、他の医療機関などにも持ち出せ、多職種・多施設間でスムーズな情報共有を行えます。また医療機器のポータブル化が普及し、超音波・胃カメラ・耳鏡・心電図検査、麻薬の持続投与なども可能です。介護保険を使えば自動体位交換のできるエアマットのレンタルや、移動バスタブでの訪問入浴サービスも利用でき、在宅療養の現場は以前とはずいぶん変わっているようです。

医療者の最終的な目標は、単に病気を治すことではなく「幸せを最大化」すること。そのように考えると、患者さんや家族の希望を叶えるためにさまざまな働きかけができるということでした。

この講演で医療機関や地域、そして人との「つながり」を重視することの大切さを知ることができました。



総会

診療の現場から

▶消化器内科のご紹介



松波総合病院 副院長 第一消化器内科部長
田上 真 先生

2017年10月より岐阜大学第一内科の医局より3人を赴任させていただき、現在常勤医9名の体制となっております。今後ともよろしくお願いたします。当科での年間検査件数は、胃カメラ3,000件、大腸カメラ2,000件、ERCP200件ほどです。その他、粘膜下腫瘍や膵臓腫瘍に対するEUS-FNA(超音波内視鏡下吸引細胞診)や、早期胃癌、大腸がんに対するESD(粘膜下層剥離術)、食道静脈瘤に対するEVL(内視鏡的食道静脈瘤結紮術)、胆のう炎に対するPTGBD(経皮経肝胆嚢ドレナージ)、摂食困難患者さんに対する胃瘻造設術やCVポート作成など多岐にわたります。また最近では、肝臓診断治療で肝生検やRFA(ラジオ波焼灼術)、TACE(経カテーテル肝動脈塞栓術)、門脈圧亢進症に対する治療として、血小板減少などに対するPSE(部分的脾動脈塞栓術)や胃静脈瘤に対するBRTO(バルーン下逆行性経静脈的塞栓術)、難治性腹水に対する腹腔-静脈シャント作成術なども可能です。原因不明の出血に対して小腸、大腸カプセル内視鏡も施行しております。胃カメラや大腸カメラは患者さんのご希望により鎮静を行い、楽な検査を心がけております。胃カメラはスムーズな予約をいただくため、WEB予約を準備中です。内視鏡室を造設後は、大腸カメラなど女性専用室での対応が可能です。消化器病専門医、内視鏡専門医、肝臓専門医が各分野に対応しております。近隣の患者さん、開業医の先生方、院内他分野の先生方には、今後ともぜひ当科へご紹介いただけますよう、心よりお願い申し上げます。しっかりと連携、治療をさせていただきます。お気軽にご連絡ください。

▶外科のご紹介



松波総合病院 副院長 外科第一部長
關野 考史 先生

松波総合病院外科は2018年4月から岐阜大学高度先進外科および腫瘍外科からの医局員派遣となり、新たなスタートを切りました。食道がん、胃がん、大腸がんといった消化管手術においては、腹腔鏡下手術を積極的に取り入れています。最も症例の多い大腸がんをはじめとして、日本内視鏡外科学会技術認定(大腸)を取得した外科第一部長關野を中心に、安全、低侵襲かつ根治性の高い手術を行っています。また、腹部良性疾患で最も多い鼠径ヘルニアに関しては、日本内視鏡外科学会技術認定(ヘルニア)を取得した外科第二部長板井を中心に、痛みが少なく、低侵襲かつ根治性の高い腹腔鏡下手術を行っています。肝胆膵悪性疾患に対する高難度手術に関しては、岐阜大学病院ともタイアップして、安全で質の高い手術をめざしています。そして、日本DMAT隊員でもある消化器外科部長八幡を中心に、腹部外科緊急疾患に対しても迅速に対応いたします。

昨今の高齢化社会を背景に、高齢患者さんの手術が増加しています。高齢者の手術においては、臓器機能の低下、動脈硬化の存在に特別な注意が必要となります。我々は十分な配慮、技術をもって高齢患者さんに対する手術、周術期管理を行っています。また、地域連携パス等、開業医の先生方との連携を重視して、一人の患者さんを多方面から密にかつ効率的に診ていくことが重要と考えています。

地域に根ざし、地域住民の皆さんからのニーズに答えつつ、より高い外科診療レベルをめざすのが我々の目標です。

▶救急総合診療科のご紹介



松波総合病院 救急総合診療科部長
八十川 雄図 先生

2017年10月に当科が新設できたことにより、ERに専従医を配置する『ER型救急』の救急外来を展開できております。地域の院内外関連部署との連携を円滑に行うことで、地域の皆様と病院の時間的距離を縮め、医療を1秒でも早く提供できるシステム作りにより、以下のように取り組んでいます。

< 病院前救護 >
「救急ワークステーション」を設置し、救急救命士・救急隊の実習・指導およびDr.カーとして医師が同乗出動し、救急要請いただいた患者さんの初療の質向上を図っております。また、岐阜大学が展開するDr.ヘリ&Dr.カーにも、スタッフとして協力体制をとっております。

< 救急診療 >
救急医及び各科上級医・初期研修医で医師チームを編成し、ERへ搬送された患者さんの状態把握・安定化、原因検索および処置を迅速に行い、救急患者さんが重症度・緊急度に合わせて適宜、該当専門科での根本治療を円滑に受けいただけるよう、尽力しております。

< 救急関連講習会 >
院内外問わず、医療関係者を対象にBLS/ICLS/ISLS等の救急初療関連講習会を定期開催し、臨床現場の対応力向上をめざしております。

< 集中治療 >
麻酔科と協力し、ICUに入室されている各科患者さんの全身状態を補助的に管理し、患者さんの安全確保や早期離床・早期退室をめざし、患者さんが一日でも早く自宅復帰できるよう尽力しております。

< 災害時医療 >
日本DMATの資格を有するスタッフが中心となり、羽島郡広域連合消防本部の協力のもと、大規模災害や列車事故を想定し、多数傷病者発生時対応を目的とした院内訓練を定期開催しています。

今後もご指導のほど、よろしくお願いたします。